



Graphic by Celeste Toogood, Toronto Canada
セレステ・トゥーグッド カナダ、トロント

・私が動物好きなのは、すいぶん幼い頃からです。小学校低学年のときの通知表に、作文の先生が「あなたが書くのは動物の話ばかりですね」とコメントしています。ちなみに、私は、高校生の頃からベジタリアンです。現在、犬1匹と猫2匹と暮らしていますが、3匹とも、街で助けた

動物です。ハリケーンカトリーナの後、数週間家に閉じ込められていたペット救出の特集番組をテレビで見ながら、帰る所がなく、見捨てられた動物のために役立ちたいとあらためて思うようになりました。

ニューヨーク市 Animal Care and Control (動物のケアと管理局) には、ボランティアの仕事がたくさんありますが、私は最近「ケージ用のフトン作り」作業に参加し、動物のケージに入れるやわらかいフトンを縫ったり、猫のおもちゃを編んだりしています。手作りのフトンやおもちゃを猫のケージに入れた途端に、雰囲気パツと明るくなるのがわかります。猫を気持ちよくさせ、一方、里親志望者の目をケージに引きつけるのです。今後もこの活動を続けて行くつもりなので、アーティストや服飾デザイナーの友達数人に声をかけて勧誘しました。ACCは、ニューヨーク市が動物福祉機関として委託契約しているNPOです。保護動物のほとんどは犬猫ですが、時には、市の「住民」としては異例の動物——例えば、体重400ポンド(約180kg)のトラ——だったりします。彼らは市の業務を請負っているため、市民から持ち込まれたペットでも、迷い動物でも、すべてを引き受けなければなりません。2004年には、5つの区から4万頭を超える犬猫を保護しました。病気と行動審査を済ませた後、多くは、3箇所ある里親センターの1つに展示されて、新しい飼い主を待つことになります。同じ年度内に1万頭以上が里親に譲渡されました。この数字には、他の動物救援グループが引き取った6千を超える犬猫は含まれていません。日本の「保健所」とは異なり、ニューヨーク市でも、また、アメリカ全土の多くのシェルターでも、動物にはできる限り里親を募り、新しい飼い主を見つける努力をします。多くは、低料金での去勢/避妊手術とか、“お年寄りには老犬を”——すなわち、高齢者が老犬をもらう場合は手数料を安くする——など特別な制度を設け、また、引き渡し後のトレーニングや行動相談を無料提供しています。

私は現在ニューヨークに住み、これまでの生涯の大半を米国で暮らしていますが、故国での動物に対する遅れた、非人道的な扱いを知るにつけ、日本国籍を持つ者として戦慄を覚えました——とりわけ、ペット飼育に関する一般市民の無理解と、また、自治体当局の不適切な対応について。アーク関係者の話から、私は、この国の“不要な”ペットが直面する諸問題や、一方、彼らに救いの手を差し伸べ、大衆の意識、および、現在の日本のやり方を変えようと努める勇気ある人たちについて知りました。大阪のある保健所からの最近の報告によると、保護した犬1400頭のうち里親が決まったのは137頭だけ、猫は4000頭のうち30頭しか引き取り手がないとか。これは、犬は10%以下、猫にいたっては1%に満たない割合です。この統計に私は気絶しそうなほどショックを受けました。抗議の意味から、日本国籍を捨てようかと真剣に思ったほどです。

アークにせよ、他の動物救援組織にせよ、活動資金はもっぱら一般人からの援助だけで、ボランティアの手によって運営されています。アークには、現在、犬300頭、猫200頭がいます。毎年250頭の新しい犬を入れ、150～160頭についてリホーミングに成功しています。

銀座の(ショップとギャラリー空間) HaNNa では、東京事務所を開設したアークに協賛して、アークのニュースレターを無料配布しています。5月には、動物福祉意識向上と資金集めを兼ねて、ギャラリーで展示会を開催しました。また、店内の掲示板にはアークの動物数匹を紹介し、里親を募っています。

この記事を読んだ方が、動物に対する同情心だけでなく、ボランティア精神や社会活動について関心を持ってくださることを私は心から願っています。「ボランティア活動ってファッショナブルで、カッコいい!」と日本の皆様にも思っていたきたいのです。米国では、アーティストやミュージシャンなど、何人かの私の仲間も、さらには、有名スターたちも、自分の信じる主義のために時間とお金を惜しみなく提供しています。その中で私が特に好きなのは俳優のポール・ニューマン——彼は自らの会社 Newman's Own で製造した有機素材のサラダドレッシングとかパスタソースを販売し、収益全額をチャリティーに寄付しています。また、元ビートルズのメンバー、ポール・マッカートニーとファッションデザイナーの娘さん、ステラ・マッカートニー——ちなみに、どちらも、ベジタリアンです——も、積極的に活動が続けられています。

あなたが信じるものは何ですか? あなたは、自分の力で世界を変えることが出来ますか? もちろん、出来ますとも!——そう私は確信します。

(ハンナ・フクシマ・アーロン)

アーク「新東京事務所」を開設

アークは、昨年、創立15周年を記念して東京事務所を設立。それ以来、2名のスタッフが東京代表をつとめ、ボランティア募集やPR行事の開催、大阪のアークにいる動物の里親を募るなど、精力的に活動を続けてきました。そして、今年4月、新たな拠点として、小さい庭がついた1階部分のアパートを借りることができました。オフィス、集会室としてはもちろん、スタッフとボランティアの宿泊所、さらには、動物を飼い主が決まるまで一時保管しておく場所にもなります。(そこに動物が捨てられる恐れがあるため)大田区のどこにあるかは公表できないものの、アーク会員はじめ、支持者、ボランティアの皆様には施設をご利用いただけます。

訪問ご希望の方は、スタッフの宮尾陽子(080-6517-8913)か ソフィー・カーン(080-6517-9632)まで、(または、アークまで) 詳細をお問合わせ下さい。東急池上線の雪が谷大塚駅から徒歩数分の所です。